

今回のオーラルフィジシャンチームミーティングでは、歯科医療を医療経済の視点から検証するという試みを企画しました。私たちオーラルフィジシャン診療所では、質の高い歯科医療を提供し、患者さんの口腔の健康を生涯にわたりサポートすることを目標にしています。しかしながら、患者さんの健康を守る歯科医療を地域で展開しようとする、内に外に様々な障壁が現れます。もちろん、診療所の対応と努力で克服できるものもありますが、日本の歯科医療の構造上の問題が大きな障壁となっている場合、個人的な努力ではどうにもならないことも多くあります。

オーラルフィジシャン海外研修では、アメリカ、スウェーデン、ドイツと歯科医療の教育や臨床現場を見聞してきましたが、多くの参加者が常に強く感じたのは、歯科医療の質とコストが日本の一般的な現状とは比較にならないほど高いことでした。そしてそのことが歯科医療や歯科医療者への信頼と安心につながっているようにも感じました。

一方、日本では国民皆保険のもと、誰でもどこでも欧米と比較すれば非常に低いコストで歯科医療を受けることができます。しかし、その内容は一般的には必ずしも胸を張れるものではなく、保険診療の中で質を担保して利益を得ようとする、神業で数をこなす他はありません。そのような状況に加えて、近年の医療費削減方針の明確化、歯科医師過剰問題、昨年来の世界的な経済危機が重なり、歯科医療の未来には暗雲が立ちこめているように感じている人も多いのではないかと思います。

しかしながら現在の日本では、そのような状況を変えるために、行政や学会、歯科医師会が十分な役割を果たしてくれることを期待することは難しいでしょう。また、国民は健康を守る歯科医療についての十分な情報が与えられていないために、医療費は安い方がよいと短絡的に考える傾向があり、マスメディアによる正しい情報の普及も今後の課題です。それならば、私たちオーラルフィジシャンは患者さんのために日本の国民の健康を守り抜くために、自分たちでこの現状を社会に示すことで変化を求めてゆかなければならないのではないかと考えます。

そこで、今回は経済および医療経済のエキスパートと、実業の世界で困難を乗り越えて成功を果たした経済人にお集まりいただき、オーラルフィジシャンとして目標の歯科医療を展開するためのヒントを伺いたいと思います。まず、東北公益文科大学学長の黒田昌裕先生には、「国際経済の未来像」と題して、現在の世界経済の動向と今後のゆくえについてお話しいただき、私たちが今どのような経済状況の上で歯科医療を行っているのかを再認識したいと思います。次に、一橋大学教授の井伊雅子先生には、新しい歯科医療の必要性とあり方を社会に示すためになくてはならない「データの重要性」についてお話しいただく

とともに、医療経済の世界と日本の比較についてお示しいただき、私たちがオーラルフィジシャンとしてどのように行動すべきか、ヒントをいただきたいと思います。また、国民性や文化、経済事情の異なる中国で、顧客や従業員的心をつかんでデパート経営を成功させた、株式会社セレスポ社長稲葉利彦先生にもディスカッションに加わっていただき、困難な中でも理解や信頼を得て、成功させるためにやり抜く思考のコツについても、伺いたいと思っています。このパートの司会進行は、NHK-BS「経済最前線」で長くキャスターを務めていた石山智恵さんをお願いしました。多くの企業や経営者を見てきた経験を生かして、歯科医療経済の現在と未来について、有益なディスカッションが行われることを期待しています。

国民の健康のために、また、私たち歯科医療従事者がオーラルフィジシャンとして力を発揮できる環境を得るためにも、どのような行動が必要であるのか、医療経済の視点から一緒に考えてみましょう。

井伊雅子氏：現一橋大学大学院国際・公共政策大学院教授

ご専門は医療経済学です。

参考文献として、昨年日本歯科医師会雑誌の論文をご一読の上、ご参加ください。

稲葉利彦氏：元中国天津伊勢丹社長、現株式会社セレスポ取締役社長

著書「十五億人をみかたにする-中国一の百貨店 天津伊勢丹の秘密-」

上記のご著書は本チームミーティングの参考文献です。ご一読の上、ご参加ください。

<http://www.amazon.co.jp/>

黒田昌裕：東北公益文化大学学長、内閣府経済社会総合研究所長